



# 連携いあい

令和元年6月

第24号

岩手県立磐井病院

## 「磐井病院のこれまでとこれから」



2006（平成18）年度に新築移転してから13年、関係者の皆さまのご協力により順調に病院を運営できましたことを御礼申し上げます。

磐井病院は、広域基幹病院として救急・急性期医療、緩和ケア病棟を有する「がん治療」などの高度・特殊医療機能、地域医療支援病院（2013年10月に認定）として両磐圏域の医療及び医療及び福祉・介護施設との役割分担と連携を担っております。

2018年6月に医療相談・入退院支援等を含めた「患者支援センター」を立ち上げました。入院前からの支援機能強化として、入院前に外来で前もって患者さんに入院生活のオリエンテーションを行い、患者情報（入院前のサービス利用等）や内服薬を確認し、リスクセサメント、退院支援スクリーニングを事前に実施することで、患者さんは入院生活や治療経過をイメージし準備した上で入院に臨むことができます。また病院側は、患者個別の事情を事前に評価した上で患者さんを受け入れることができ、円滑な入院医療の提供につながります。

産婦人科は、当院での分娩件数が増加しており、少ない医師数で年間850件の分娩を維持しております。小児科は現在5名体制ですが、医療圏の小児科医を全部合わせても8名と足りておらず、各科も含め医師確保に引き続き努力していく必要があります。

これまで東北大学からの外来応援で維持していた耳鼻咽喉科は昨年度から常勤医2名体制となり、手術も含めた確実な診療を行えるようになりました。

また、地域包括ケアについては、在宅医療と、医療・福祉・介護・歯科・薬局の情報共有システムの構築が大きな課題です。理想は、全国どこでも情報が共有できるシステムを国家レベルでの導入を期待したいところです。

2019年度には、岩手県の県立病院間の患者情報共有システムが整備される予定です。また、当院の電子カルテのバージョンアップが予定されていて、花泉診療センターにも本院と同じ電子カルテが導入されます。

これからも、当院の「地域の皆様に納得のできる医療を提供します」という基本理念のもと、地域医療への貢献、更なる経営改善の取組み及び多職種連携による地域の医療・介護・福祉との連携に努めて参ります。

地域に必要な医療を維持し、「納得できる」効率良くかつ質の高い医療を提供できるよう、なくてはならない病院として、地域の皆様の支えとなることを心から願っております。

院長 加藤 博孝

### <岩手県立磐井病院 理念>

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

### <岩手県立磐井病院 行動指針>

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

### Contents

- 磐井病院のこれまでとこれから・・・1
- 病棟紹介～3東～・・・2
- 平均在院日数について・・・2
- 2019年度新任医師・研修医の紹介・・・3、4
- 患者紹介について・・・4

# 病棟紹介～3東～

病棟師長 吉川 真喜

3 東病棟は、脳外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科を有する 60 床の混合病棟です。近年人口構造の変化に伴い、高齢者世帯や独居世帯が増加している現状から、高齢者の転倒による骨折が多く、手術等の治療により疼痛の緩和や QOL の向上をめざし、看護をしています。また、認知症・せん妄等の理解や高齢者に対する回復支援と看護ケアについて、認知症ケアチームとカンファレンスを実施しながら対象者にあったケアの提供に努めています。他にも、脳血管疾患、耳鼻咽喉疾患、泌尿器疾患を患い、入院による手術を受ける患者・家族の思いにより沿い、医師と情報共有しながら、安心して急性期の入院生活が送れるように配慮しています。

リハビリテーションは脳疾患や運動器疾患において回復のために大切な治療です。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・摂食嚥下認定看護師等と協働して行っています。また回復期リハビリテーションのため転院や自宅等への退院に向けた支援は地域連携室や退院支援看護師と連携しチーム医療を提供しています。

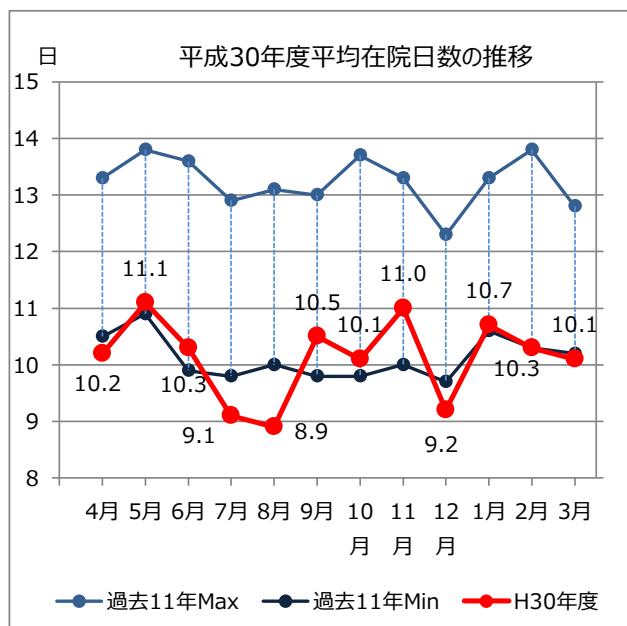


## 平均在院日数について

診療情報管理室 主任主査 中村 仁

当院は令和元年度の D P C 機能評価係数Ⅱ標準病院群で全国 5 位の係数となりました。その中で効率性係数（全国の病院と同じ患者構造に補正した在院日数を評価した係数）を偏差値で比較すると、岩手県立病院の標準病院群の中では最も高い 65.6 点となりました。

平均在院日数の推移を見てもみると、現在の狐禅寺地内に移転した平成 18 年度は 12.6 日、DPC 対象病院となった平成 21 年度は 12.3 日、そして平成 30 年度は更に短縮して 10.2 日となっています。



平成 30 年度の平均在院日数（左グラフ）でも過去 11 年にくらべ在院日数が短縮されていることがわかります。理由としてあげられるのは、機能分化による地域医療連携の推進や、医療の質改善、標準化を目的としたクリニカルパスの推進などが考えられます。

しかし一方で、在院日数が単に短くなればよいというわけではありません。在院日数短縮による病床稼働率の低下は経営上好ましいことではありませんし、適切な医療の提供という面では、入院が必要な患者さんを、退院させているのではとらえられかねません。厚生労働省で公開している平成 29 年度の再入院に関するデータでは、当院の同一疾患での 4 週間以内の再入院率は 5.5%（全国 7.12%）となっており、退院（転院）の判断は適切であると判断しています。

当院では、このように様々なデータを活用し、医療の質を評価しながら効率的な医療の提供を目指していますので、関係各位におかれましては、ご理解とご協力をお願いいたします。

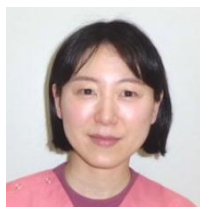
# 2019 年度新任医師・研修医の紹介



今年度から新たに当院の一員として加わった新任医師・研修医 16 名の紹介です。皆様どうぞよろしくお願いたします。

- ①役職名
- ②出身大学（教室）
- ③所属学会
- ④専門分野
- ⑤ひとこと

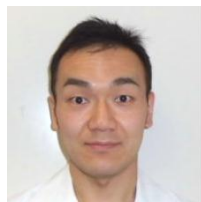
## 新任医師



たかはし みか  
**高橋 美香子**

- ①歯科口腔外科医長
- ②岩手医科大学
- ③日本口腔外科学会（認定医）  
日本口腔科学会（認定医）
- ④口腔外科一般

⑤地域の皆様のお役に立てるよう、日々鋭意努力して参ります。よろしくお願いいたします。



はとやま けいいちろう  
**鳩山 恵一朗**

- ①外科医長
- ②京都府立医科大学
- ③日本外科学会（専門医）  
日本消化器外科学会（専門医）  
消化器がん外科治療認定医
- ④消化器外科・食道外科

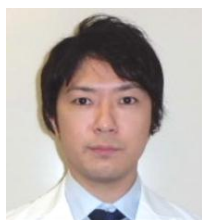
⑤患者さん一人一人に寄り添った、丁寧な医療を提供出来るように日々頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします



こしば やすとし  
**小柴 康利**

- ①耳鼻咽喉科医長
- ②弘前大学
- ③日本耳鼻咽喉科学会（専門医）  
日本頭頸部外科学会  
日本頭頸部癌学会
- ④耳鼻科疾患一般

⑤一関の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



あべ たかひさ  
**阿部 高久**

- ①整形外科医長
- ②岩手医科大学
- ③日本整形外科学会（専門医）  
日本関節鏡・膝・スポーツ  
整形外科学会  
日本骨折治療学会
- ④膝、スポーツ整形外科

⑤機能外科として、個々の生活に即した診療を行っていききたいと思います。



おおつか こうじ  
**大塚 康二**

- ①産婦人科医師
- ②産業医科大学
- ③日本産科婦人科学会（専門医）  
日本医師会認定健康スポーツ医
- ④産婦人科、スポーツ医学

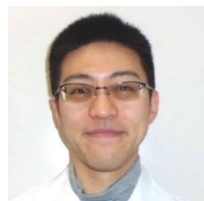
⑤岩手県の医療に貢献できるよう精一杯努力させていただきます。



しょうばら しゅういち  
**庄原 秀一**

- ①循環器内科医師
- ②弘前大学
- ③日本内科学会日本循環器学会  
日本心血管インターベンション  
治療学会
- ④循環器一般

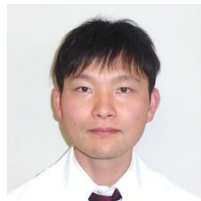
⑤H28 年 4 月から H30 年 3 月まで磐井病院で初期研修医として勤務し、1 年間岩手医大循環器医療センターで勤務し、本年度より循環器内科の医師として戻って参りました。地域に少しでも貢献できるよう精進して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



のぞえ だいすけ  
**野添 大輔**

- ①産婦人科医師
- ②昭和大学
- ③日本産科婦人科学会

⑤石巻での 3 年間の研修の後、異動して来ました。まだ駆け出しですが、地域に貢献していけたらと思っています。よろしくお願いいたします。



うしやま しんぺい  
**牛山 心平**

- ①消化器内科医師
- ②弘前大学

⑤地域の皆様のお役に立てるよう、日々鋭意努力して参ります。よろしくお願いいたします。

# 研修医

今年度は計8名の研修医が加わりました。  
2年間よろしくお願いします。

- ①出身大学
- ②ひとこと



かたやま だいき  
**片山 大輝**

- ①東北大学
- ②親しみやすい医師をめざします。



きたかみ けい  
**北上 慧**

- ①岩手医科大学
- ②皆様のお役に立てるようがんばります。よろしくお願いします。



さかもと ある  
**坂本 有**

- ①東北大学
- ②しっかり精進して参りますので、どうぞよろしくお願いします。



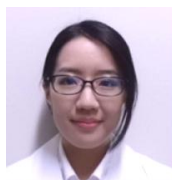
すがわら りゅうじろう  
**菅原 隆 二郎**

- ①岩手医科大学
- ②岩手、一関の医療に貢献できるようにがんばりますので、よろしくお願いします。



おざわ かな  
**小沢 花奈**

- ①秋田大学
- ②一生懸命がんばります！よろしくお願いします。



さきはら ま ゆ か  
**崎原 麻悠香**

- ①琉球大学
- ②一日でも早く即戦力として活躍できるよう努力してまいります。



はまさき りょう  
**浜崎 亮**

- ①東北大学
- ②志望科は特に定まっていないので、お世話になる科では、多くを積極的に吸収していきたいと考えております。一生懸命頑張るつもりです。よろしくお願いします。



よしおか たく や  
**吉岡 拓哉**

- ①東北大学
- ②まだ診療科が決まっていないので全ての科に全力で取り組みたいです。至らない点も多々あると思いますが、誠心誠意がんばります。

## 患者紹介について

当院では、小児科を除いて、外来診療が**予約制**となっております。そのため、患者さんの紹介につきましては、予めFAXでの受診予約をお願いしております。（当日受診を希望される場合は、直接担当医師まで電話にてご相談ください。）

出来る限り早めの回答を心掛けておりますが、診療スケジュール確認等のため、若干お時間をいただくことがありますので予めご了承ください。（急ぎの返信が必要な場合は、その旨をFAX用紙にご記入願います）

大変勝手なお願いではございますが、今後ともスムーズな診療にご協力の程宜しくお願い致します。



## 岩手県立磐井病院

### 【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17  
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691  
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

### 【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室  
病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>  
公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaihp>



# 連携いawaii

令和元年 9月

第25号

岩手県立磐井病院

当院が「赤ちゃんにやさしい病院  
(BFH:Baby Friendly Hospital)」に  
認定されました



BFH 認定授与式  
(R1.8.3 札幌市民ホール)

←参加した当院「母乳育児推進  
委員会」メンバー



## ＜岩手県立磐井病院 理念＞

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

## ＜岩手県立磐井病院 行動指針＞

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

## Contents

- 当院が「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」に  
認定されました・・・・・・・・・・ 1、2
- 病棟紹介～2病棟～・・・・・・・・・・ 3
- 紹介率、逆紹介率・・・・・・・・・・ 3
- お知らせ・・・・・・・・・・ 4

# 「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」認定証授与式

新生児科長 天沼 史孝



1990年にユニセフ（UNICEF）と世界保健機構（WHO）が定めた、世界母乳の日（8月1日）、世界母乳育児週間（8月1日～7日）には、毎年、世界170カ国以上で母乳育児の促進と乳児の栄養改善を目指した取り組みが行われており、日本では毎年、母乳育児シンポジウムが開催され、同時に「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」認定証授与式も行われる。

今年は当院が認定を受け、8月3日・4日に札幌市で開催された第28回目のシンポジウムにおいて、磐井病院名入り法被をまとった院長はじめ総勢15名のメンバーで認定証授与式に参加してきた。

BFHとは、母乳育児を中心とした適切な新生児ケアを全世界で推進するため、長期にわたり母乳育児に積極的に取り組んでいる施設のこと、日本ではユニセフ（UNICEF）と世界保健機構（WHO）の委託を受けた日本母乳の会による審査・推薦を経て認定される。今年の認定により、当院は県内で盛岡市の黒川産婦人科に続き2番目、県地域周産期母子医療センターでは初の認定施設となった。

当院では、妊娠中からのケアの充実、産後サポート体制の強化、母子同室、早期母子接触、母乳育児支援などを実行している。母乳育児成功のための10カ条（10ステップ）を長期にわたって遵守し、実践するため、院内に母乳推進委員会を立ち上げ定期的な委員会の開催、現状を把握し問題点の抽出・改善、ワークショップや研修会、シンポジウム等に参加、おっぱい通信というリーフレットを定期的に発行し院内・院外へメッセージを配信し、母乳育児の大切さや必要性を浸透させてきた。

今後は現状に満足せず、地域全体へ広めていくことが我々に与えられた使命として、赤ちゃんとお母さんが楽しく母乳育児が継続出来るよう病院スタッフ一同、地域の皆様に選ばれる施設にしたい。

医療従事者が母乳育児支援に十分な知識、能力、技術を持ち、実践することが大切であり、地域の医療従事者、保健師、保育士を含む行政による、母乳育児の大切さに対するご理解とご協力をお願いし、母乳育児を地域全体、ゆくゆくは岩手県全域に広めたい。

## 病棟紹介～2 病棟～

2 病棟は、外科、救急科、歯科口腔外科を有する 51 床の病棟です。外科では、消化器系、乳房、甲状腺等の手術を受ける患者さんの周手術期看護、救急科では外傷、薬物中毒、肺炎、熱中症、マムシ咬傷、アナフィラキシーショック等の急性期医療を行っています。

患者さん 1 人 1 人が安心して退院後の生活を過ごせるように、入院から手術後の経過を予測し、医師やリハビリテーションスタッフ、薬剤師、栄養士、患者支援センターと相談しながら退院支援を行っています。人工肛門造設後の方などには、退院前訪問や退院後訪問などを行い、退院後の生活が困らないよう支援しています。

多職種が関わることで、患者さんが順調に回復していく過程を医療チーム間で実感できること。また、患者さんやご家族から感謝の言葉をいただくことが、仕事へのモチベーションや元気の源になっています。

緊張が絶えない職場ではありますが、患者さんが不安なく過ごせるよう、笑顔が絶えない職場を心がけています。

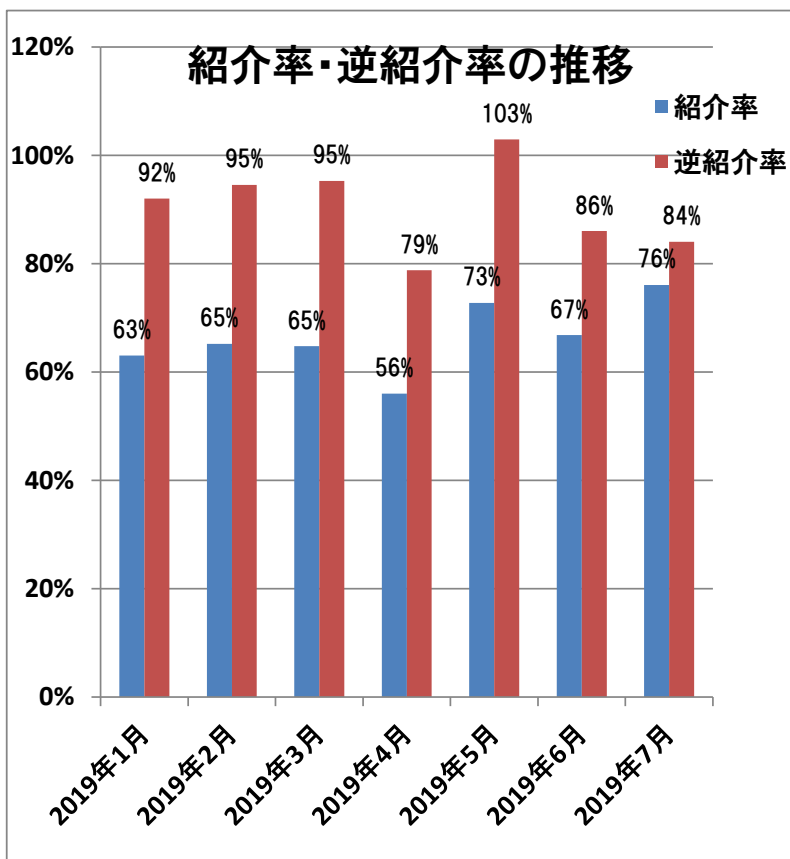


## 紹介率・逆紹介率

当院は、平成 25 年 10 月より地域医療支援病院の指定を受けております。患者に身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点の元、地域の中核病院として各医療機関と適切な連携を図っていくよう努めております。そうしたなかで、紹介率・逆紹介率は、第一線の地域医療を担う、かかりつけ医を支援する一指標として用いられており、地域医療支援病院の承認要件（当院では紹介率 50% 越え、かつ、逆紹介率が 70% を越えること）ともなっています。



皆様のご協力のおかげで、今年度の紹介率・逆紹介率の承認要件を満たすことができております。  
誠にありがとうございます。



# お知らせ

## ■ 褥瘡研修会 を開催します

『こんなときどうする？褥瘡ケア  
～栄養・薬剤・リハビリの視点から～』

- 開催日時：11月1日（金）17:45～19:00
- 会場：磐井病院 2階 多目的会議室
- 参加対象：医療・介護・福祉に携わる職種どなたでも
- 主催：磐井病院 褥瘡予防対策委員会
- 参加費：無料
- 申し込み：必要（下記までお問い合わせ下さい）  
⇒磐井病院 医事経営課 TEL：0191-23-3452（内1353）



## ■ よろず講演会 を開催します

前半：『抗がん剤について』  
後半：よろず相談&お茶会 ～自由にお話ししましょう～

- 講師：磐井病院 主任看護師 高橋 大 氏
- 開催日時：11月22日（金）13:00～15:00
- 会場：磐井病院 5階会議室
- 主催：がん患者・家族サロン「こころば」
- 参加費：無料
- 申し込み：不要



## ■ 第12回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会 のお知らせ

- 開催日時：12月1日（日）9:00～17:20  
※事前にインターネットでの『e-learning』受講が必要です。
- 会場：磐井病院 2階 多目的会議室
- 参加対象：医師・歯科医師、薬剤師、看護師、MSW、放射線技師、臨床検査技師等の医療職
- 主催：一関市医師会／磐井病院（共催）
- 参加費：無料（昼食等として1,000円を負担）
- 修了認定：厚生労働省健康局長及び岩手県知事名で『修了証書』が交付されます。
- 申し込み：下記までご連絡ください  
（受講案内をお送りします）  
⇒磐井病院 地域医療福祉連携室  
TEL：0191-23-3452（内8105）



# 岩手県立磐井病院

### 【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17  
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691  
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

### 【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室  
病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>  
公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>



# 連携 いわい

令和2年3月

第26号

岩手県立磐井病院

## 『一関市医介連主催研修会』を開催しました

当院は『一関市医療と介護の連携連絡会（通称：医介連）』に参加しており、一関市との共催で一般市民や医療・介護関係者向けの医療講演会（研修会）を毎年行っています。

今年度は『尿もれ・頻尿などについて ～漏れにも負けず～』をテーマとして、10月19日(土)に一関保健センターを会場に開催し、3題の講演を行いました。

市内西城病院：泌尿器科の佐藤文夫先生からは「頻尿・尿失禁の診療」と題して、排尿の基本知識や泌尿器疾患の原因・予防・治療などについて、大変分かりやすくユーモアを交えた内容でご講演いただきました。

また、当院からは千葉良子皮膚・排泄ケア認定看護師が「尿失禁ケア用具の活用方法」として、市販製品の選び方・使い方、関連した皮膚トラブル予防について説明し、稲見雅浩リハビリテーション技師長からは尿失禁予防のための「骨盤底筋体操」を紹介しました。

併せて当日は、会場受付横に実際の衛生・介護用品（おむつ・シーツなど）の紹介展示も行い、介護関係者や自宅でご家族を介護されている方々に大変好評でした。

身近なテーマから今回は特に女性の参加者が多く、一般・医療介護関係者を併せて100名を超える参加がありました。今後も皆様のニーズに沿った内容で開催したいと思いますので、ご意見・ご要望がありましたらお寄せください。



### ＜岩手県立磐井病院 理念＞

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

### ＜岩手県立磐井病院 行動指針＞

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

## Contents

- 一関四医介連主催研修会・・・・・・・・・・1
- DMAT 報告・・・・・・・・・・2
- 県南地区地域連携担当者会議・・・・・・・・3
- 診療情報管理室のご紹介・・・・・・・・3
- 各医療機関・施設への「連携施設訪問」にご協力願います・・・・・・・・4
- 新型コロナウイルスによる行事等の中止について・・・・・・・・4

# DMAT活動報告

救急科長 片山 貴晶

DMAT（災害医療支援チーム）は、先の阪神大震災で避けられた災害死が多く存在したことから、一人でも多くの命を助ける目的で設立されました。機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療的支援を行っています。当院のDMATは2006年に発足しました。

今回我々は、10月に発生した台風19号による大雨で被災した宮城県において、被災直後の3日間活動したので報告します。

宮城県知事からの要請を受けて、医師2名、看護師2名、業務調整員1名の計5名は大河原町にある仙南保健医療調整本部に参集しました。さらに現場の活動拠点である角田保険医療調整本部に移動しました。医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健師、行政の方々などと共に朝夕2回のミーティングを開き、その日の目標を定め、どのようなアセスメントをするかを決定しました。

我々が活動した角田市の拠点においては、主に公衆衛生活動を行いました。水害では直後から衛生状態の悪化が懸念されます。1・2日目は避難所、診療所や施設の確認と医療ニーズ、また薬剤のニーズについて調査しました。実際に我々は特別養護老人ホームや市民センターで医療ニーズについて調査をしました。3日目は避難所の閉鎖へ向けてのプラン作成、衛生環境やDVT（深部静脈血栓症）の調査、必要な段ボールベッドやエアフィルターの設置場所と個数などの決定、そしてDMAT撤収に向けての情報の集約などを行いました。また保健師と共に各家庭を訪問して、衛生状態の確認や指導も併せて行いました。

磐井病院DMATは現場ではなく、本部活動として、他のDMATチームの受け入れ、クロノロジー（情報、出来事、顛末などの継続的な記録）の作成、上位活動拠点本部への連絡、収集した情報の確認、データベースなどの作成を行いました。そしてDMAT撤収後の地域保健活動に役立つような情報を集約して引き継ぎを行いました。以上DMAT活動報告でした。



# 県南地区地域連携担当者会議

地域医療福祉連携室 長倉 学

一昨年（H29 年度）から、『県南地区入退院支援看護師等連携会議』として一関市内及び奥州市南部の 14 病院間における「顔の見える連携」体制づくりを目的として集合会議を当院で主催させていただいております。例年看護師・MSW・事務員など幅広い職種の皆様に参加されていることから、今年度より名称を『地域連携担当者会議』に変更しました。

今回は「患者紹介時のスムーズな情報共有」に関する議題が上げられ、各病院で行っている方法、困っている現状や要望など意見交換があり、漏れのない提供についてあらためて確認されました。

また、一関市内の病院間での「患者連絡票（いわゆる ADL 確認票）」の様式統一についても議論が交わされ、作成担当者の業務軽減と誤記載を防ぐ等の観点から、全病院で統一化に向けて検討することとなりました。（現在、各病院の要望を検討して様式案を作成中です）

今後もより良い連携に向け、継続して開催していきたいと考えております。



## 診療情報管理室のご紹介

「診療情報管理室」は、県立病院で平成 26 年度から正式に作られた新しい部門です。患者さんには直接対応することがほとんどありませんので、初めて聞く方が多いのではないのでしょうか。

磐井病院では、室長、室次長含め 8 名で業務をしています。主な業務内容は、電子カルテに入力されたデータをデータベース化して分析を行い、医療の質の向上や経営の改善を目的に院内外に情報提供しています。

例として「院内がん登録」があります。がんに罹患している患者さんの情報を登録し、毎年国立がんセンターに情報提供しています。このデータは国立がんセンターのホームページから見ることで、様々に利活用されています。また、病院の実績などをホームページ上に公開し、広く情報提供しています。

ぜひ、病院ホームページや国立がんセンターのホームページをご覧ください。



## 各医療機関・施設への「連携施設訪問」にご協力願います

地域連携室では『顔の見える連携』を目指し、平成 28 年 7 月より毎月 1 回：5～6 施設ずつのペースで、患者紹介・逆紹介で連携実績のある医療機関や施設への訪問を行っております。

対象施設は一関市内を中心に、病院、診療所・個人医院、介護支援事業所・支援センター、訪問看護ステーションなど多岐にわたり、これまでの約 4 年間で延べ 200 箇所以上の施設を訪問させていただきました。

訪問時には、病院へのご意見・苦情などを実際に関わっている先生方や職員の方から直接お聞きし、それを元に病院業務の改善に努めるとともに、併せて患者紹介・逆紹介の推進依頼や入退院支援等にかかる意見交換も行っております。

患者支援センターの看護師・医療ソーシャルワーカー（MSW）・事務職員等が事前連絡のうえ伺っておりますので、訪問の際には忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



## 新型コロナウイルスによる行事等の中止について

今般の新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当院で開催している定例会議、行事等が令和 2 年 3 月より中止、延期となっておりますので、お知らせいたします。

- (1) 医師会症例検討会（毎月 1 回、第 2 火曜日、18：30～）
- (2) 緩和ケアテレビカンファランス（毎月 1 回、第 3 月曜日、18：30～）
- (3) 一関在宅緩和ケア支援ネットワーク（IZAK）会議  
（毎月 1 回、第 3 火曜日、18：30～）
- (4) 地域連携パス検討会（年 3 回、延期）
- (5) どこでも医療講座（職員による出前講座、3 月～5 月末まで派遣を中止中）

再開時期が決まりましたら、順次お知らせいたします。

よろしくお願いいたします。



## 岩手県立磐井病院

### 【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17  
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691  
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

### 【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室  
病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>  
公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>